



## 充実の2学期

本日をもって1・2学年は91日、3学年は90日あった2学期が終了しました。2学期は、規模を縮小しつつも精一杯の取り組みをした9月の墨坂祭、形を変えて行った10月の県内各地への修学旅行・臥竜山オリエンテーリング・職業講演会、11月の人権教育月間や今年度初の参観日など、例年よりも多くの行事がある学期になりました。

一方で、新型コロナウイルス感染の第3波の影響が大きかった学期でもありました。ご家庭においては、平時とは比べようもないご配慮をいただいたことと存じます。お陰様で、生徒達は着実な一歩を刻みつつ力を伸ばし、一年間で最も長い学期を終えることができました。ありがとうございました。

### 2学期終業式 『不撓不屈の精神を』

#### 【校長先生のお話】(テレビ放送にて)

今、2学期のまとめの発表がありました。3人とも、2学期の生活の中からしっかりと自己を見つめて、次へのめあてを見据えています。すばらしいことです。ぜひ、具体的に動いてください。

さて、今日で2学期が終わります。みなさんは何を思い出しますか？全校のみんなの力を合わせた墨坂祭がありました。閉祭式のエンディングを思い出す人も多いと思いますが、あの雰囲気象徴されるように、3年生のリーダーシップのもと、492人一人ひとりの力を結集して、テーマである「Revolution～歴史に僕らに革命を起こせ」が実現されました。それにより、友や先生方とさらに心を通わせて、クラス、学年、全校の絆が強くなりましたね。部活動では1・2年生の新人戦がありました。各部とも全力を尽くし奮闘しましたが、きっとまだ満足はしていないと思います。「臥薪嘗胆」、ぜひ、これからの冬場、限られた時間の中で、コロナ対策を万全にして、何をいかに為していくか、顧問の先生や仲間と伝え合いながら切磋琢磨していきましょう。

コロナ禍の中で、延期になっていた学年行事も、できることは何かという観点で、先生方に模索していただき、形を変えた上で実施できました。

3年生の修学旅行の感想です。「コロナの影響で奈良京都へは行けなかったけど、先生達のお陰で南信・中信の方へ行くことができととても嬉しかったです。ありがとうございました。この修学旅行を通してクラス内の色々な人と話す機会がすごくあって自分からも話しかけられたし、友だちの知らない一面も見つけられたとても充実した2日間になりました。」

2年生は職場体験学習がキャリア教育講演会となりました。その講演会の感想です。「中学の学習はこれからの自分にとってとても大切だと思いました。自分の得意なところは活かしていき、苦手なところは将来に向けて改善していきたいと思いました。これから自分にあった仕事を見つけることがとても大切だと思います。日本には3万もの仕事があるので、自分にあった仕事を見つけるために、その仕事について詳しく知ることが大切だとわかりました。」



1年生は、妙高宿泊体験学習の代わりに、臥竜公園オリエンテーリングとクラスマッチを学年の実行委員会が中心になって企画・運営して行いました。各チェックポイントでは、実行委委員が問題を提示し、出された側は真剣な顔つきで考えている姿がありました。宿泊学習とはいきませんでした。学年の実行委員会が中心になり計画実行することで、自治的、実践的な活動が行われ、学年やクラスの仲間意識を高めることができました。

こうした行事も行われる中、日々の学習についても頑張っている友だちがたくさんいます。2年生のある友だちの思いです。「家に帰ってから自主学習をしました。いつもは理科と社会はやらないけれど今日は理科と社会もやりました。次のテスト範囲はまだ出ていないけれど、後1ヶ月くらいで次のテストが来るので、今から少しずつ勉強していけば、前のテストよりも点数を上げられるかなあと思ったので、続けていきたいです。」というものです。3年生は勿論、自らの自己実現のために受験勉強という名の下に、自主学習を具体的に計画・実行していることと思いますが、1、2年生も、宿題だけでなく毎日の家での生活や学習スケジュールをしっかりと見据えていくことが大切になってきますね。学校でも「学習相談」の時間があります。そうした時間以外にも「家庭学習への取り組み」等について、墨坂中の先生方全員があなた達の思いに寄り添い、協力していこうということを惜しみませんので、ぜひ、どんどんと相談してください。

さて、3年生を始めとして自己実現に向けて学習面での頑張りを見せている友達もたくさんいますね。そうした皆さんに向けたお話をしたいと思います。



これは何ですか？そうです。「達磨（だるま）」ですね。きっと全員が見たことがあるものですね。

選挙の開票番組などで、当選者が必勝だるまに目を入れるシーンを見ることがあると思います。赤く丸いだるまさんには実はモデルがいます。達磨大師（だるまだいし）という偉いお坊さんです。達磨大師は、紀元前4世紀の終わり頃に、インドの王子として生まれます。彼は国王が亡くなった後に、出家して僧侶になります。般若多羅（はんにゃたら）という偉いお坊さんの元で40年あまり修行したのち、インド各地に仏教の教えを広めて歩きます。インドでは数々の神通力を発揮して、たくさんの信者を得てお寺も興しますが、般若多羅の遺言に従って中国へ布教の旅へ出かけます。中国各地でも神通力を駆使した

伝説がたくさん残っています。彼が亡くなった後、達磨は「偉大なる師」という意味で偉いお坊さんを敬う呼び方として使われる「大師」という呼び方をおくられ、禅宗の開祖として人々に敬われ、今に伝わっています。

達磨大師の説いた教えは、鎌倉時代に日本にも伝わり、禅と呼ばれ、禅宗という宗派が生まれました。この教えとともに、達磨大師の肖像や伝説を描いた絵も中国から伝わり、日本でも禅僧によって達磨大師の肖像画が描かれるようになります。達磨大師は、お寺の裏山の洞窟の岩壁に向かって、9年間も座禅を組んで修行を行いました。「面壁（めんぺき）9年の修行」と言われます。長い間座禅を組んでいたために、足が立たなくなってしまうほどの、その姿を、この達磨の形にして敬い、親しんできたのです。

この姿はどこか滑稽みもありますが、実は一つの願いをもったならば、最後まで頑張り通した、達磨大師の「不撓不屈の精神」の象徴なのです。不撓不屈とは「強い意志をもってどんな苦労や困難にもくじけない様」ということです。ですから、達磨の精神を「七転び八起き」といって、いくら転んでも、必ず起き直ってくるという意味で大変縁起の良いものとしてきました。そこで、人々は何か願い事をもったときには、この達磨を持ち出して大師が頑張り通して悟りを開いたように、私たちもそ

の願いを実現するように、頑張りたいものだとは祈ってきたのです。そうして、いつの世からかは分かりませんが、最初に願いをもった時に片方の目を入れます。やがて、その願い事が叶えられたときにもう一つの目を入れて喜び合い、感謝し合うようになったのです。

達磨大師のように「不撓不屈」「七転び八起き」の精神で、皆さんにも、これからも一心集中して頑張り抜いて欲しいと思います。その気持ち、心持ちが、まずもって大切です。そうして「大願成就」できることを心から期待します。

明日から始まる冬休みは、普段忙しい中学生の皆さんにとっても、いちばん家族とゆっくりできる時間です。どうか家族との時間を大切にしてください。休み明け1月6日から始まる3学期は、授業日数が48日という短いまとめの学期です。新しい年への夢、エネルギーをもって登校してください。そして、事故と病気にはくれぐれも気をつけて生活してください。

佐藤先生や担任の先生からお話がありましたが、「自分のため 皆のために 登下校時もマスクをしましょう。」この休みも外に出るときはマスク着用を心がけましょう。皆で力を合わせてこのコロナ禍を生き抜いていく、乗り切っていくという気持ちを心に刻んで行動で表していきましょう。“One for All, All for One.”です。

それでは皆さん、良いお年をお迎えください。



#### 【連絡】

- ・お子さんに、本日二学期通知票を渡しました。お子さんと一緒にご覧いただき、2学期の頑張りを大いに認めてあげてください。お子さんの努力を具体的に認めながら、課題も含め3学期に向けてのやる気を導いていただければありがたいと思います。
- ・年末年始休業中は、1月5日（火）を除いて留守番電話対応となります。留守番電話対応時間の緊急連絡は、市役所の代表番号（245-1400）へお願いします。教育委員会より学校職員へ連絡が届くシステムになっています。また、1月5日（火）の電話対応時間は、午前8時15分～午後4：45となっております。
- ・学校評価保護者アンケートのご協力ありがとうございました。今後、いただいた結果やご意見について検討し、3学期に報告をしたいと思います。
- ・学校ホームページに「証明書の発行願い」のコーナーを設けてあります。用意してある文書は「各種証明書発行願い（卒業証明書／成績証明書／在学証明書）」「学割証発行願い」「インフルエンザの治癒証明書」になります。「インフルエンザの治癒証明書」に係るインフルエンザの出席停止期間等についての説明も掲載してありますので、併せてご覧ください。

本年も大変お世話になりました。よいお年をお迎えください。



学校生活について不安なことや心配なことなどありましたら遠慮なく学校（教頭・養護教諭：Tel026-245-0564）までお知らせください。

## 【参考資料】

# 12月1日以降の須坂市としての対応について

「令和2年(2020年)11月30日 新型コロナウイルス感染症須坂市対策本部」より抜粋

11月14日には、須坂市を含む長野圏域に「新型コロナウイルス特別警報」が発令され、これ以上の感染拡大を防ぐことが重要で、いまがまさに正念場で、県が12月1日以降の対応方針を示したことから、これらを踏まえ、本市では次のとおり対応します。

## I 「新しい生活様式」の定着を推進するための取組

### 1 市民の皆さまへ

#### (1) 基本的な感染防止策の徹底

ア 新型コロナウイルス感染症が、飛沫や接触によりウイルスが目・鼻・口から入って感染することを踏まえ、基本的な感染防止策（身体的距離の確保、人と接する場合はマスクの着用、手洗い、手指の消毒、「3つの密」を避ける）を継続し、「新しい生活様式」沿った行動を定着させ、「うつらない」（自分を守る）、「うつさない」（周囲を守る）、「ひろげない」（地域を守る）ための行動をお願いします。

イ 発熱や風邪等の症状がある場合には外出を控え、「新型コロナウイルス感染症対策長野県民手帳」等を活用し、自分の健康観察を行い、自己の行動歴について記録などしておいてください。

ウ 年末年始は、帰省や忘年会、新年会など飲酒や会食の機会の増加が予想されますので、感染防止策を徹底してください。初詣の際は、可能な限り混雑する日時を避けることや、人との距離を確保するなど自らできる対策を行うとともに、神社や寺院などが実施する感染防止対策に協力してください。

#### (2) 感染者が多数発生している地域への訪問

直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数が5.0人を上回っている都道府県への訪問に当たっては、感染防止の3つの基本の徹底、業界ごとに策定される感染拡大予防ガイドラインを遵守していない接待を伴う飲食店などへの訪問を控える、当該地域から戻った後も健康観察を行い、行動歴を記録するなど慎重な行動をお願いします。

とりわけ、直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者数が15.0人を上回っている（政府分科会提言におけるステージⅢ相当）都道府県への訪問に当たっては、訪問そのものを慎重に検討した上で、感染リスクが高い状況を避けるよう留意し、避けられない場合は訪問そのものを控える。

また、その他の都道府県への訪問に当たっては、移動に伴う地域を超えた感染拡大の可能性をできるだけ低くするために、改めて基本的な感染防止策の徹底をお願いします。

なお、県内においても陽性者が増加している地域があるため、県内の移動に当たっても感染拡大を招かない行動を心がけてください。

#### (3) 会食、飲み会における留意事項

会食や飲み会における集団感染例が確認されていることを踏まえ、忘年会や新年会など飲酒や会食等に際しては、ガイドラインを遵守している店舗を利用するとともに、次の事項に留意し、感染リスクを下げながら楽しむ工夫をお願いします。

① 体調が悪い場合又は、10日以内に悪かった場合は参加しない、させない。

② 開始前と会食後に必ず手指消毒を行う。（可能であれば会食中も、手指消毒の代わりに徹底した手洗いでも可。）

③ 人と直接的な接触はもとより、大皿料理や取箸、お酌、カラオケマイク等間接的な接触をしない。

④ 人との距離を保ち、パーティション等が無い場合には会話の際にマスク着用もしくはハンカチ等で口を覆う、大声で話さないなど、飛沫を人や人の食べ物に飛ばさない。

⑤ 会場の換気に気をつけ、30分程度ごとに窓やドアを開けて換気を行うか、短時間で会食を切り上げる。

#### (4) ご家族や周囲に高齢者や持病がある方など重症化リスクが高い方がいらっしゃる場合には、ウイルスを「うつさない」「うつらない」「持ち込まない」意識を持って行動をお願いします。

また、病院や高齢者施設、障がい者施設においては、重症になりやすい患者や利用者の安全を守る上で、外部からウイルスを持ち込まないことが特に重要です。お見舞いや面会については、施設の指示に従ってください。

#### (5) 人権への配慮についての依頼

ア 患者・感染者、医療機関や福祉施設等に勤務されている方々、交通機関や物流など市民生活の維持に必要な業務に従事されている方々やその家族に対し、人権侵害は絶対にしないでください。

また、感染拡大している地域に居住する方々や該当地域と行き来されている方々に対する、差別や誹謗中傷は絶対しないよう冷静な行動をお願いします。

イ 誰もが感染する可能性があるという意識を持って、感染者等の気持ちに寄り添い、治療を終えた方等が安心して日常生活に戻ることができる地域・社会をつくりましょう。